

令和3年度 学校経営計画

目指す学校	<p>(1) 学習・行事・部活動等を通して、生徒一人ひとりの学力・体力・人間性を高める。</p> <p>(2) 生徒が「入学して良かった」と思えるように、教職員一人ひとりが学校創りに取り組む。</p> <p>(3) 教科・学年・分掌等が緊密に連携し、生徒一人ひとりの進路希望の実現を目指す。</p>
-------	---

★特に重点を置いて実施

中期的目標と方策		令和3年度の取組目標と方策			
		柱	教育活動の目標と方策	重点目標と方策	数値目標等()内は昨年度
I 学習指導	基礎学力の定着を図り、進路希望の実現を図る。	①補習講習の充実・学習習慣の定着・読書活動の推進	(1) 授業とともに、補習講習を充実させ、進路希望実現に必要な学力を身に付けさせる。	★(ア) 長期休業中、放課後等の補習講習を、教科と学年が連携し学校全体で計画的に実施する。	長期休業中の講習を60講座以上。(夏期講習40講座)
			(2) 自学自習の励行、資格試験の奨励、学習課題の工夫などで、学習習慣を定着させる。	(イ) 自習環境を充実させる。 (ロ) 資格試験を奨励し、授業や講習、課題等で必要な組織的な指導を行う。 (エ) 効果的な課題の内容や提出方法について工夫する。	漢検、英検等、資格試験合格者数の増加。 家庭学習時間1日30分以上70%以上(62%)
		(3) 読解力向上を目指して読書活動を推進する。	★(オ) 図書館運営委員会を中心に、教科や総合的な探究の時間の指導、ビブリオバトル、課題作文、他校交流、部活動連携等で、読書活動を推進し活発化する。	月2冊以上本を読む生徒25%以上。(19%) 書評合戦上位進出。 他校との学校交流会1回	
		(4) 感染症対策をとりながらも授業時間を確保し、進路希望実現に必要な学力を身に付けさせる。	(カ) 教科会で年間指導計画を十分に検討し、内容の精査かつ充実を図る。 (キ) 授業規律の維持を図る。	年度当初の授業時間を確保。 チャイム着席の励行100%(90%)	
授業力向上に努め、生徒の興味・関心を喚起し、学習意欲を高める。	③授業改善	(5) 指導内容と方法を工夫し、授業力を向上させる。	(ク) 年2回、相互授業見学を実施する。授業者は教科指導における自分の課題を提出し、見学者は報告書でフィードバックする。 (ケ) 若手教員の研究授業を活用し、全体の授業力を向上させる。	相互授業見学年間2回以上(教科内外)、報告書提出100%(83%) 教材や教え方の工夫100%(100%)	
思考力・判断力・表現力を向上させる。		(6) 生徒による授業評価を分析し、授業に反映させる。	(コ) 生徒による授業評価を年2回実施し、授業改善に活かす。	授業満足度80%以上(80%)	
学力の組織的把握と指導方針の共通理解を図る。	④総合的な探究の時間(道徳・奉仕)	(7) アクティブ・ラーニングの手法などで、思考力・表現力等を高めるとともに、学習内容の定着を図る。	(チ) 総合探究委員会、「教育課程研究指定校事業」等で、指導や評価の研究に取り組み、言語活動や探究学習等を活発にする。	デジタル技術を活用した教育の推進に関する研修年1回	
		(8) 「学力スタンダード」や模擬試験等の結果を教科会で検討し本校の到達目標を明確化、教科指導の改善に努める。	(シ) 学力向上推進委員会や教務部、進路部で学力検査、模擬試験等を、教科会で定期考査、学力調査問題、課題テスト等を分析し、課題発見と改善に努める。 (ス) 次期教育課程の検討を進め、教科書選定に向けて決定する。	1・2年生では、学力調査問題5教科を年2回、課題テストを年3回、模擬試験・スタディサポートを年3回実施。3年生では、校内模試に加えて、校外での模試を積極的に受験させ、進路指導の参考とする。	
変動する社会で活躍できる人物の育成を目指し、探究学習やオリパラ教育等の学校教育全般で、主体的学習能力、社会貢献の意識と資質、グローバルな視野を育てる。		(9) 「総合的な探究の時間」などでキャリア教育等を推進し、自己の在り方・生き方を見つめさせ、課題発見とその解決に取り組ませる。	(セ) 「総合的な探究の時間」等の実施計画を精査し共有した上で、キャリア教育や地域の探究等体験活動等により、自己理解、課題解決、在り方・生き方等について主体的に考え、発表する機会を設ける。	「自己や人間関係を考えるきっかけとなった」75%以上(68%) 「自分の将来を考えるようになった」80%以上(76%)	
		(10) オリパラ教育や異文化体験を通して、グローバルなものを見方を養う。	(ソ) オリパラ教育や国際理解教育を通じて、国際社会への興味関心を高める。	英語や国際理解に関わるプレゼンテーションの実施。	

II 生活指導	生徒の規範意識を高め、ルールやマナーを実践できる力を向上させる。	① 基本的な生活習慣の育成	(1) 規律正しい生活習慣や規範意識の向上の為に、集団生活のルールやマナー等について、教職員全員で積極的に指導する。	★(ア) 遅刻指導、自転車指導、服装指導等を、学年と生徒保健部が連携して全校で計画的に実施する。 (イ) 交通安全教室、薬物乱用防止教室、避難訓練等を、関係機関と連携して実施する。 (ロ) 全校で挨拶を励行する。	「交通ルールや登下校のマナーを守っている」90% 生徒会を中心に挨拶運動を推進。
		② 規範意識の育成	(2) 自己と他者を尊重する態度を育てる。 (3) 問題行動の早期発見、早期対応に努める。 (4) 情報モラルについて多様な場面で考えさせる。	(エ) ルールやマナーについて、全校集会や生徒部通信など多様な機会に周知し、生徒観察や個人面談などで状況把握に努める。 (オ) 「いじめ対策委員会」を活用し、課題に対しては毅然とした姿勢で学校全体が臨む。 ★(カ) 「小川高校SNSルール」を周知し、家庭と連携し情報モラルを育成する。	「安全・安心な学習環境」85%以上(84%) 「学校はいじめ・体罰防止に取り組んでいる」90%以上(91%) 「情報モラルが身についた」95%以上(97%)
	地域と連携した清掃活動等を通じて、地域貢献・環境保護の意識を育てる。	③ 清掃・美化	(5) 校内や近隣の清掃美化、花壇の整備等に取り組む。	(キ) 美化委員会を中心に美化活動、生徒会やボランティア部を中心に花壇整備等に取り組み、その活動を全校に広げ活発化する。	「校内美化に努めている」85%以上(82%)
		III 特別活動・部活動	① 学校行事	(1) 生徒会を中心とした主体的な取り組みを支援し、学校行事を充実させる。 (2) 日本の伝統文化を理解発信する取り組みを積極的に行う。	★(ア) 行事の実施方法に工夫を施し、生徒が自発的・主体的に取り組むよう指導し、内容の質的充実を図る。 (イ) 授業、行事、部活動等で伝統文化理解教育に取り組む。 (ロ) 文化祭等において、日本文化の紹介する機会を設ける。
IV 健康づくり	生徒の心身の健康の保持増進に努め、安心安全な学校生活の実現に努める。	② 部活動	(3) 部活動を通じて、達成感、連帯感、自他尊重の精神を養う。	(エ) 部活動方針について保護者・生徒と顧問で共通理解を図る。 (オ) 日々の取組、地域や中学校との交流等、部活動を積極的に評価する。	「部活動が盛んに活動している」75%(70%) 体罰ゼロ。
		① 健康の保持増進	(4) 学校と家庭、地域関係者が連携し、生徒が健康で安心安全に学校生活を送れるようにする。	(ア) 学校保健委員会を中心に全校で、感染症防止を徹底し、健康観察に留意する。 (イ) 保健体育、家庭科、特別活動等で、健康増進について具体的な指導を行う。	熱中症予防講習、アレルギーなど事故発生時対応訓練の実施。 保健だよりの発行。基本的な生活習慣や健康三原則(栄養・運動・休養)の定着に努める。
	教育相談体制を充実させ、生徒や保護者からの相談に適切に応じる。	② 教育相談	(5) 「学校いじめ対策委員会」「特別支援教育委員会」を中心に、全校で教育相談に取り組み、心身ともに健康で学校生活を送れるように支援する。	(ロ) カウンセラーを有効活用し、学年・生徒部・保健室が連携し、全校で情報共有や教育相談に取り組む。 (エ) 発達障害について共通理解を深める。 (オ) 生命尊重教育・人権尊重教育を推進する。	カウンセラーによる全員面談で早期の課題発見と、サポートを必要とする生徒への対応方法等に関する校内研修を実施。 特別支援コーディネーターを中心に、特別支援学校等と連携し、校内研修を年1回以上実施。 自殺予防研修を年1回以上実施。
生涯健康で充実した生活を送れるよう体力の向上を図る。	③ 体力づくり	(6) 体育祭、マラソン大会、部活動等を通じ、基礎体力の向上を図る。	(カ) 具体的な到達目標を設定し、体力テストの事前指導を充実させる。準備運動の中に筋力トレーニングや柔軟性を高める運動等を取り入れ、体力全般や競技力向上につなげる。	体力テストで都平均値を下回った種目の改善に努める。	

V 進路指導	キャリア教育の全体計画を踏まえ、生徒一人ひとりの進路希望実現を目指す。 一人ひとりの生徒が、自分の興味や適性に気づき、自分の役割や責任を果たすことで、自己有用感と自己肯定感が高まるように支援する。	① 面談	(1)生徒一人ひとりの学習状況や進路希望状況を踏まえた面談を充実することで、進路意識を喚起させ、進路希望実現への取り組みを支援する。	(ア)進路部が模試データなど進路情報を集約・分析・提供する。 ★(イ)進路部と学年、教科が連携して、生徒一人ひとりの進路指導を組織的に行い、その成果を個人面談や進路ガイダンス等で活かす。保護者会や三者面談等を通して保護者への情報提供を積極的に行う。	1年二者面談2回 2年二者面談2回 三者面談1回 3年二者面談2回 三者面談1回 面接指導として、集団面接、プレゼンテーションなど、全校体制で計画的に取り組む。
		② 進路指導	(2)生徒のニーズや新大学入試等に対応した系統的進路ガイダンスプログラムを充実させる。 (3)週休日や長期休業中の講習補習を充実させる。 (4)「進学指導研究校」「進学指導研究校アソシエイト」として高めた進学指導力と教科指導力、その実績をさらに向上させる。	(ウ)大学など外部機関も活用し、進路ガイダンス、進路講演会、現役大学生による進路説明会、面接指導、資格取得、奨学金等の業務に取り組む。 (エ)オープンキャンパス参加で、進学先の研究を進める。 ★(オ)全学年の模試分析会を実施して、その結果を、拡大学年会等を通して全教員で共有し、教科指導や進路指導等に活かす。 (カ)次期教育課程の検討とともに、高大連携や共通テスト等、大学入試の動向について情報収集提供に努める。	進路希望達成率90%以上(89%) 「進路関係の資料や進路講話などは充実している」90%以上(88%) 「進路指導は1学年から計画的に行われている」90%以上(88%) 在校生の目標・励みになるような進路実績を挙げる。
		③ 就職指導	(5)生徒の希望や適性を考慮しながら、望ましい勤労観・職業観を育て、社会の一員として活躍できる資質態度を育てる。	(ク)ハローワーク、東京仕事センター等と連携した職業体験・しごとセミナー・職業紹介・面接練習や職場訪問等で、就職希望の実現を支援する。 (ケ)職業人として必要な基礎学力を身に付けさせる。	事前事後指導を充実させ、就職活動での不適正事象を防止する。
VI 募集・広報活動	本校への地域の要望を把握し、目的意識を持って本校を希望する生徒の確保を目指し、広報活動の一層の工夫改善を図る。	① HP・学校案内	(1)様々な手段を活用して、本校に関する情報を、正確・迅速に発信し、理解を深めてもらう。	★(ア)ホームページのリニューアル、学校案内等の工夫により、学校の特色を効果的に伝える。 (イ)学校説明会用パワーポイントやDVDをより効果的な広報媒体として更新する。	ホームページのリニューアル及び更新250回以上 HP掲載記事の工夫(授業等学校生活全般の情報発信) 学力検査応募倍率1.4倍以上(1.3倍)
		② 出学前校授業明・会部・活体動験体授業	(2)学校説明会・学校見学会等の機会を積極的に利用し、組織的・計画的に広報活動を推進し、参加者のニーズに応え、本校への理解を深めてもらう。	★(ウ)全校体制で学校見学・説明会、体験授業、出前授業、部活動体験等を工夫して行う。 (エ)町田を重点的に、多摩南部等の中学校・塾訪問を行う。 ★(オ)学校説明会補足資料等を充実させ、一貫した説明に役立てる。	夏学校見学会中学生参加者2000名以上(1109名) 学校説明会中学生参加者1200名以上(609名) 市内中学校訪問、塾訪問を実施 経営企画室の学校説明会への参画。
VII 地域交流等	学校の施設を公開し、また、近隣との交流を活性化させ、本校への理解を深めてもらう。	① 施設開放	(1)施設開放の利用調整を行い、公開講座を開催する。	(ア)テニスコート、グラウンドを開放 (イ)公開講座を実施。	テニスコート10日以上(2日) グラウンド3日以上(0日) 体育館3日以上(0日) 「各地の戦争遺跡は語る」実施(中止)
		② 地域とのかかわり	(2)地域との連携により、地域貢献意識を高める。 (3)オリパラ教育を推進する。	(ウ)地域と連携し発災時を想定した防災訓練を実施し、防災意識を高める。 (エ)地域行事の参加や花壇の整備などで、ボランティア精神を高める。 ★(オ)近隣の学校や市役所等との連携によって地域の課題発見・設定・解決を行う。 (カ)教科指導や総合的な探究の時間等で、「やり抜く力」への理解を深めさせる。	地域と連携した防災訓練の実施、 「地域との連携に協力的」90%(85%) 地域企業や自治体への就職の実現

VIII 学校経営・組織体制・経営企画室の経営	<p>ライフ・ワーク・バランスのある職場環境づくり</p> <p>教職員は、力を合わせて、多様な課題に、迅速・適切に取り組む。</p>	① 学校経営	<p>(1)情報共有を徹底するとともに、業務の効率化を推進し、ライフ・ワーク・バランスの実現を図る。</p> <p>(2)体罰、セクハラ、個人情報保護など、サービス事故ゼロの校内体制を維持充実させる。</p>	<p>★(ア)「チーム小川」で、情報や経験の共有化と業務の在り方を検討し、効率的な仕事の進め方を工夫する。</p> <p>(イ)体罰、セクハラ、個人情報保護など、具体的な事例を取り上げながら、教員面接や校内研修、日常の観察や声掛けなどで、服务意识の徹底を図る。</p>	<p>毎朝の打ち合わせの実施 拡大分掌部会 原則週1回 拡大学年会 年2回 教職員の勤務時間外在校時間の短縮化</p> <p>服務研修の実施 年3回以上 顧問会議の開催 年1回以上 生徒部による部活動の把握。 教員面接の活用。</p>
		② OJT・人材育成	<p>(3)主幹教諭、主任教諭を活用として、組織的・継続的なOJTを通じて、人材育成を行う。</p> <p>(4)校内研修を実施し、教職員の資質・能力の向上を図る。</p>	<p>(ウ)職層に応じた役割を明示し、自己点検により課題の明確化を図る。職層に応じた役割分担を行い、組織的で計画的な人材育成。</p> <p>(エ)サービス事故防止研修、模試分析会などに加え、経営企画室職員による事務手続等の研修会を実施。</p>	<p>職層に応じた自己点検、役割分担を早期に決定し、計画的な人材育成の充実を図る。(OJT 診断基準を活用)</p> <p>校内研修3回以上 若手教員研究授業参観</p>
	③ 学校評価	<p>(5)学校運営連絡協議会、保護者、同窓会、地域等の意見・要望を学校経営に活用</p>	<p>(オ)学校評価アンケートで、保護者からの回収率を高め、学校経営に十分反映させる。</p>	<p>アンケート回収率 生徒 100% (100%) 保護者 50%以上 (10%) 地域 100% (100%)</p>	
	④ 読書活動	<p>(6)学校司書・司書教諭を中心に、教科・学年・分掌と連携して言語活動の活性化を図る。</p>	<p>(カ)学校全体でビブリオバトルに取り組む。</p> <p>(キ)教科指導やキャリア教育、特別活動などで、図書館利用を促進する。</p> <p>(ク)司書教諭や図書館支援員の指導のもと、活用しやすい図書館を目指して、図書委員会が主体的な活動に取り組む。(貸出返却、読書週間、図書館だより、ポスター、推薦図書、オリパラ関係を含む書籍等の展示、他校交流)</p>	<p>図書貸し出し数 2,100冊 (636冊)</p> <p>来館者数 10,000名 (1,741名)</p>	
	⑤ 予算編成	<p>(7)必要な品目を重点的に予算配分し、計画的・効果的に執行する。施設・設備・備品を適正に管理し、有効に活用する。</p>	<p>(ケ)経営企画室と分掌・教科・部活動の連携を密にし、予算編成・執行を行う。</p> <p>(コ)施設・設備の点検を強化し、安全確保や美化・衛生に努めるとともに、サポートを必要とする生徒など、生徒が安心安全な生活が送れる環境整備に取り組む。</p>	<p>一般需用費の支援センター利用率 50%以上 (45.2%) 予算執行率99%以上 (99%以上)</p> <p>新型コロナウイルス対策予算 (115万円)等を活用し、必要な物品の確保を行う。</p>	
	⑥ 授業料及び学校徴収金	<p>(8)経営企画室と教員が連携し、収納及び執行管理を行う。</p> <p>(9)公的支援に関して、確実な周知と適切な対応を行う。</p>	<p>(ク)納入状況を迅速に把握し、未納者に対しては迅速な督促を行い、早期納入に努める。</p> <p>(シ)学校徴収金については、「学校徴収金基本計画」に基づき、計画的かつ適正な予算執行をする。</p> <p>(ス)学年と連携を密にして、就学支援金・給付型奨学金・多子世帯における授業料等支援事業等の制度について周知し、申請書類の確実な回収を図る。</p>	<p>授業料納入対象者の未納率 0% (0%) 学校徴収金の未納率0% (0%)</p>	